

新人職員ら実習 収穫の喜び実感

日本農業新聞掲載日：令和 7 年 11 月 20 日（木）

J A 東京みなみは 11 月上旬、日野市にある J A の小林和男組合長の畑で新入職員収穫祭を開いた。2025 年度新採用職員ら 5 人が小林和男組合長の指導の下、サトイモと根ショウガを収穫した。

新入職員は毎年 5 月、管内特産の梨の授粉作業を行っているが、昨年より梨火傷病の影響で花粉を無駄にできないため実習内容の変更を検討。小林和男組合長がこの収穫祭を企画し、今年で 2 回目の開催となった。

サトイモは葉と葉柄を切り落とし、三本鍬で株の周囲の土を掘り起こしてサトイモを傷つけないよう慎重に収穫。子芋、孫芋、ひ孫芋を親芋から手を取り外し、持ち帰った。

サトイモを収穫した新入職員の芦川樹さん（22）は「サトイモを掘るのは力仕事かと思っていたが、こつがあり難しかった。農作業の大変さと収穫の喜びを実感した」と話した。



サトイモを収穫する芦川樹さんと小林和男組合長（写真右）（東京都日野市で）